

【OP 級】の最も一般的な規則42違反

これは、ジャッジとセーラーのためのガイドである。

原則:

ジャッジはセーラーに対して疑わしきは罰せず、であるが、セーラーが規則 42 に違反していると確信した場合、規則を守っているセーラーを保護するために行動しなければならない。

規則 42 に影響のあるクラス規則:なし

クラス特有のテクニックと違反

OP 級での明らかな違反は、わかりやすいが最近ではセーラーやそのコーチたちが規則の制限を広げるためのテクニックを発展させることが問題である。その結果、ジャッジはペナルティーを課すかどうかを決定する前に、艇がイエローライト・エリアにいる間にもう少し監視に時間をかけなければならないかもしれない。

スタート

1. スカリング

力強くて穏やかな動きでも、OP のラダーはスカルの効果は大きく、掃くようにゆっくりした動きでも艇を推進できる。セーラーは特に軽風下ではスタート・ラインの位置を保持するため前のスカルを打ち消すためにスカルする(スカル 2)。スタートにおいて他艇の間に挟まれるのを回避するため、艇を推進させる力強いスカルを見ることもある。そのような行動は規則 42.2(d)に違反する。

- 艇を推進させない、または後進を止めない穏やかなセンターラインを越えるようなラダーの動き
- たとえ力強くて、艇がクローズホールドのコースより風上であり、明らかにクローズホールドのコースへの方向転換をしている場合のスカリング - 42.3(d)、スカル1
- 減速のために舵を繰り返し動かすこと - 42.3(f)

禁止される行動:

- 艇が直ちに風位に立つのを止めるため、または他艇の風下に滑り込むための、クローズホールドのコースより風下でのスカリング
- 左右両方向への力強いスカリング - スカル2
- カニ歩き。ただしセールを逆に張ることによる操舵を打ち消すに十分な力強いラダーの動きに限る。 - スカル3

証拠の収集:

- ティラーの動きは力強いのか？
- 艇を前進させているか、後進しないようにしているか？
- 艇はクローズホールドのコースより風上であり、明らかにクローズホールドのコースに方向を変えているか？
- 前のスカルを打ち消すようなスカリングか？
- セールを逆に張っている場合、スカリングで艇のコースが変わらないようにしているか？

2. ロッキング

ロッキングは多くはスタート直後に見られ、特に軽風下では、セーラーは他艇の影から逃げる際に、艇の中に立ちあがり、風下にヒールさせ風上に戻ることを繰り返す。

許される行動:

- 艇を明らかに推進させない1回のロール

禁止される行動:

- 艇を明らかに推進させる1回のロール - 基本4
- 艇を繰り返しローリングさせること - 42.2(b)(1)

証拠の収集:

- 競技者が、艇のロールを引き起こしているか？
- 1回のロールは、艇を明らかに推進させているか？
- ローリングは(2回以上)繰り返されているか？

アップウィンド

1. トルキング

OP級は艇が小さくてバウが平らで変則的な形なので、セールに影響を与える多くの身体の動きが見られる。これを判断する場合、フリックが波のパターンにより起こるのではなく、セーラーの身体の動きとフリックが関連付けられていることを確認することが重要である。

許される行動:

- 波のパターンに合わせた、艇の前後トリムを変えるためのトルキング - ウーチ1

禁止される行動:

- リーチのフリックを引き起こす、過度なトルキング - パンプ6

- 平水面でのトルキング - ウーチ2
- 水(あか)をくみ出す場合、明らかに艇を推進させる効果のある1回の強いボディー・パンプ - 基本4 または、艇を繰り返しローリングさせるような艇の内外方向への身体の動き - 42.2(b)(1) 水(あか)をくみ出すことは規則 42 の原則違反を正当化する根拠にならない。

証拠の収集:

- 波があるか？
- セーラーの身体の動きはリーチのフリックを引き起こしているか？
- フリックとセーラーの身体の動きは関連付けられるか？
- フリックは繰り返されているか？
- 波によりリーチのフリックが起きているか？
- 1回のボディー・パンプは明らかに艇を推進しているか？
- 他艇と比較してどのように見えるのか？

2. ボディー・パンピング

ポートタック艇がスターボードタック艇の前を通過しようとして、ボディー・パンプが行なわれているのをよく観察することができる。この場合、証拠の収集の原則はトルキングの項と同じである。

3. スカリング

アップウインド・レグでは通常、風上マークの近くでレイラインよりも風下でタックをしたセーラーがマークに達しようとする場合か、またはマークに接触後、それから離れるために、スカリングは起こる。スタートにおいてもスカリングの原則は同じで例外が適用され、セーラーはマークと衝突した後それから離れるためにのみスカルできる - 42.3(h)

リーチレグ

大多数の違反は中風および強風の状況で、主にシート・パンピングまたはボディー・パンピングが起きる。これは横と後ろからが最も見やすく、セーラーの身体の動きとリーチのフリックを簡単に関連付けられる。

1. シート・パンプ

許される行動:

- その時の状況に合わせて、艇をトリムするためのセールの引き込み - パンプ2
- サーフィングまたはプレーニングを開始するために一波またはガスト(風の一吹き)に 1 回、セールをパンプすること。ただし、艇がサーフィングと認められるためには、急に加速しながら波の前面を下るものでなければならない。 - 42.3(C)

●たとえそれが成功しなくても、できるかどうか微妙な時のサーフィングまたはプレーニングさせる1回の試み - パンプ7

禁止される行動:

- セールをファンニングさせるための引き込み - パンプ 1
- サーフィング中またはプレーニング中のパンピング - パンプ 12
- 連続三回の失敗した、プレーニングまたはサーフィングの試み - パンプ8

2. ボディー・パンプ

禁止される行動:

- リーチのフリックを繰り返し起こすボディー・パンプ - パンプ6

証拠の収集:下記のダウンウィンドの項を参照

ダウンウィンド

1. パンピング

許される行動:

- その時の状況に合わせて、艇をトリムするためのセールの引き込み - パンプ2
- サーフィングまたはプレーニングを開始するために一波またはガスト(風の一吹き)に 1 回、セールをパンプすること。ただし、艇がサーフィングと認められるためには、急に加速しながら波の前面を下るものでなければならない。 - 42.3(c)
- たとえそれが成功しなくても、できるかどうか微妙な時のサーフィングまたはプレーニングさせる1回の試み - パンプ7

禁止される行動:

- リーチのフリックを繰り返し起こすボディー・パンプ。 - パンプ6
- セールをファンニングさせるための引き込み - パンプ 1
- サーフィングまたはプレーニングを開始するために 1 回のパンプを行い、艇が次の波に達する前に 2 回目のセールの引き込みをすること。それは横からが最もよく見ることができ、2 回目のパンプが波の間でありプレーニングまたはサーフィングを開始するためのものではないことが簡単に見える。
- サーフィング中またはプレーニング中のパンピング - パンプ12
- 連続三回の失敗した、プレーニングまたはサーフィングの試み - パンプ8

証拠の収集:

- サーフィングまたはプレーニングできる状況か？
- 一波またはガスト(風の一吹き)に 1 回のパンプはサーフィングまたはプレーニングを開始しているか？
- 艇は、サーフィング中またはプレーニング中にパンプしているか？
- 引き込みと緩めは風の振れ、ガスト(風の一吹き)、または波に対応しているか？
- 繰り返しの引き込みと緩めで、セールをファンニングしているか？
- リーチのフリックと身体の動きは関連付けられるか？

2. ロッキング

許される行動:

- 風上に向けるのを促進するために風下側にヒールさせることと、ベアを促進するために風上側にヒールさせることが、波のパターンに合っている - ロック6
- 艇の復元性が減少した際に、艇を適切なトリムに戻したり、乗員が固定された位置にいたりすること - ロック1、ロック4

禁止される行動:

- 波のパターンに連動しない、艇の繰り返しのローリング - ロック7
- 波がないなど、操舵を容易にする必要のない状況でコース変更をする場合の艇のロール
- 繰り返しのローリングが続いて起こるような 1 回の身体の動き - ロック5
- 軽風下で、センターボードを水から上げ、艇の風上に座り、片手はセンターボードをつかみ、艇を風上にヒールさせて、上体をリズムカルに動かしてロールを起こすこと - 42.2(b)(1)
- 軽風で波の小さい中で、操舵によって起こすローリング。ほとんどは波を使って、艇を増速させる。 - 42.2(b)(3)
- 水(あか)をくみ出す場合、艇を繰り返しローリングさせるような艇の内外方向への身体の動き
水(あか)をくみ出すことは、艇を繰り返しローリングさせることを正当化するものではない。

証拠の収集:

- 競技者は艇のロールを引き起こしているか？
- ローリングは艇の操舵を助けているか？
- ローリングで艇の操舵を容易にする状況であるか？
- 艇のヒールの量は艇の回転量とあっているか？
- ローリングは波のパターンと連動しているか？

助言

1. 質問しよう。
2. もしあなたがテクニックについて自信がない場合には、書いて説明をお願いしよう。その答えは他のセーラーにも有益である。
3. イエローフラッグ・ペナルティーを受けた場合、あなたがしてよいこと、してはいけないことの説明を、ジャッジをお願いしよう。
4. より重要な大会では、セーラーに対するジャッジの比率が高い。よって、本当に重要なとき、あなたの帆走テクニックはしっかり見られていることを覚えておこう。

この文章は、ガイダンスとしてのみ位置づけています。公式文章は、「ISAF の解釈」です。